

## TRIAL TRANSLATION

The following is an excerpt from an original article written for a future Japan Echo Inc. publication. Translate it into English and send your translation, along with your resume and any other pertinent materials, to [work@japanecho.co.jp](mailto:work@japanecho.co.jp) no later than June 15. You may inline the text in the body of your email or attach a .doc, .docx, .rtf, .txt, or .pdf file.

---

ギリシャの債務残高を上回る日本の国債について、2つの異なる見方がある。第1は、日本の財政状況がギリシャより悪化しているため、国債価格の暴落が起こっても不思議ではないとする悲観的な見方である。第2は、日本の国債の大部分が国内の貯蓄によって消化されたため国債破綻はないとする楽観的な見方である。

この両論ともに短絡的過ぎる。税収の増加が見込めない状況で民主党政権が掲げる歳出の増加が続き、公的年金の財政破綻が懸念される中で日本の財政赤字の拡大が見込まれている。確かに、これまで日本の国債の大部分は国内で消化されてきた。これは、1990年代後半以降、民間企業の投資のための資金需要が減少し、国内の貯蓄が国債購入にあてられたためである。国債発行の増加がいわゆる「クラウディング・アウト効果」を持たなかったため、長期金利の上昇を回避できた。しかし、これは持続可能な状態ではない。民間部門の設備投資の低迷は成長力の低下を意味する。さらに、これが税収の増大を妨げることにもなっている。

---